

の階段の上り下りがきつい高齢者は、ゴミ出しや布団干しにもヘルパーを雇わねばならないという実態があります。そこで市役所職員が戸口までゴミを収集に行く。するとそこで安否確認もできますね。行政と地域が一体となって高齢者や障がい者を見守っていくことが必要ですね。

男性の参加が課題 地域ボランティアとして…

立川 それと「男性の参加」が課題です。地域福祉の現場は女性のボランティアで成り立っていると言っても過言ではない。今後、団塊の世代が退職されま

す。定年後は自宅にこもるのではなく、ぜひ地域ボランティアとして関わっていただければと願っています。

吹田市にお願したいのは、例えば「場所の整備」です。昼食会の会場は公民館や市民ホールが多いのですが、そこにエレベーターや移動式昇降機がない。一人で階段を上げられない方が多い高齢者を対象とした昼食会なのに、2階で行う、などということになっていきます。また子育て

で真っ最中のお母さん方を支援する子育てサロンにしても、自宅から市民ホールまで遠いので、気軽に来れない。ホールに駐車場があれば、もっと気軽に集えるようになると思います。

有田 そうですね、高齢者や障がい者の支援の場が、バリアフリーでないのは問題ですね。また子育てサロンにしても、今は核家族化しておじいさん、おばあさんの子育て体験が生かされない。孤独死と同様、児童虐待も増えていますから、こうした地域の子育て支援事業に、気軽に参加できる体制作りも大事ですね。

こうした福祉・子育てにこそ、予算を使ってほしいと思うのですが、橋下大阪府知事は「財政再建だ」と、地域福祉予算もばつさり削ってしまいましたね。

立川 小地域ネットワーク活動には、一地区につき毎年50万円の補助金がありました。府が25万円、市が25万円で合計50万円でした。ところがこの大阪府の部分が他の事業と合わせて削減したうえで、交付金化され、やりたいたところはやりなさいと変更されたのです。

有田 昼食会などに関わる予算ですよ。毎年50万円でも全然足りないと思うのですが。

立川 そうです、全然足りません。それで募金や一口500円の地域ふくし協力金などを自治会ごとに募って、ぎりぎりまかなってきいているというのが実態です。幸い、吹田市は大阪府のカット分を独自に補助したので全体の予算は変わりませんでした。

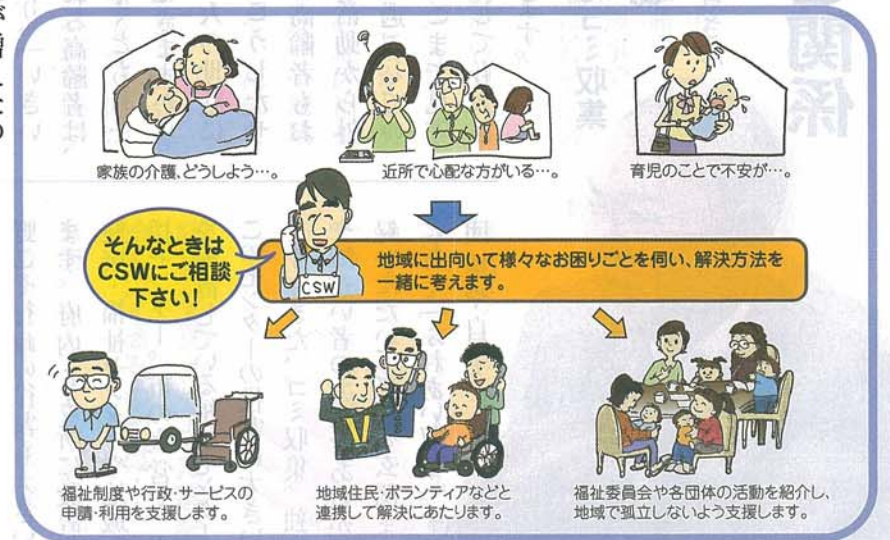
しかし吹田市の負担が増えたので、これがいつまで続くか心配ですね。

無償でいいのかボランティア

有田 昼食会だけでなく様々な事業をされていますし、例えば本来なら福祉委員さんなどのボランティアも無償でいいの、か、という問題もありますね。

立川 原則は全く無償でやってるのです。最後に今の社協が抱えている課題と、今後の展望を。

立川 さらに市民に密着した福祉サービスをしようと、藤白台地区では毎年65歳以上の独居の方、70歳以上の老夫婦の方々へアンケートを実施しています。見守り活動を希望しますか？という問いに対して、「お願いします」と応募された方でも、「しかし、近所の方は困ります」と回答される人がいます。つまり見守り活動をしてほしいけれど、近所の方にプライバシーをさらすのはいやだ、と。さらには明らかに孤独死の危険があるのに「応募しません」と回答される方々。昔は「向こう三軒両隣」と、近所で支え合ったものですが、今は地域になじんでおられない方も多いようです。こうした孤立した人々をどうするのか、が課題の一つですね。ニュータウンでは公社や府営住宅の建て替えが進み、今までのコミュニティがいったん崩壊して、「誰がどこに住んでいるのかわからない」状態になりつつあります。そんな中で地域から孤立した方々が心配です。



CSW (コミュニティ・ソーシャルワーカー) は、皆さんの悩みごと・お困りごとの相談にのります。



子育て支援事業「仲良しキッズクラブ」

それと、社協では3ヶ月に一回「社協だより」を発行しているのですが、もっと広報に力を入れて、多くの市民に社協の活動を知ってもらうことから始めていきたいですね。

有田 地域で孤立している人をどう支援していくのか？非常に難しい問題ですね。ハッキリしているのは、行政だけでも、社協だけでも、民間の事業所だけでも、問題は解決できないという。行政と市民と事業所が、日常的に連携し、力を合わせて共同していかなければならないと思います。地域福祉活動の発展と充実のためにできることから、一緒に始めたいですね。本日はありがとうございました。



「すいた社協だより」は3か月に1回発行しています